

3つの危機に即した現状の整理

界土区分	特徴	保全の状況	＜第1の危機＞ 人間活動・開発が直接的にもたらす種の減少・絶滅等	＜第2の危機＞ 自然への人為的働きかけが縮小撤退することによる種の減少等	＜第3の危機＞ 外来種による生態系の擾乱、化学物質による生態系への影響	＜その他＞ 3つの危機に当てはまらないもの、別にした方が適当と考えられるもの	危機への対応(事例案)
北総地域の 里山(谷津 田、台地、 水田)	沖積平野と下総台地から成る。平野は台地に樹枝状に入り込み、谷津田と自然、古墳が多く、古くから人による利用が行われ、現在は市街化が進んでいる。森林の多くは、平野と台地の境の斜面に残されている。	一部に県土環境保全地域の指定あり。その他、市町村による指定あり。	○市街化による森林・農地の減少 等動植物の生育・生育環境の劣化・分断・縮小(エッジ効果、受粉効率的の低下、都市林化、行動圏の縮小、個体群サイズの縮小、局所的な種の絶滅等) ○大規模開発事業による希少動植物への影響(オオタカ、サンバ、サンカゴゴイ等) ○希少動植物の密猟・盗掘(オオタカ、アン類等) ※データなし。 ○開発に伴う湧水地、湧水量の減少 ※データなし ○残土埋立てによる生態系への影響(谷津田の埋立て等)	【森林】 ○植林地(スギ林、アカマツ林等)の管理放棄・管理不足による動植物の生育・生育環境の悪化・消失 ○薪炭林産業の衰退・消滅による森林構造の変化(照葉樹林化、樹高の増大、アズマネザサの繁茂等)とそれに伴う林床植生の単純化(キンラン、キンラン等の減少) ○管理放棄・管理不足による竹林の拡大に伴う動植物の生育・生育環境の悪化・消失 【水田・谷津田】 ○耕作放棄による生態系への影響(水生生物、サンバ等) 【草地】 ○牧・カヤ場の消失による草原植物の絶滅(オキナグサ、オミナエシ等) ※別紙1	○外來生物の繁殖による在來生物への影響(アマガサザリガニ等) ※データなし ○河川敷における外來植物(アレチウリ、オオボクサ、セイタカアワダチソウ等)の繁茂による在來生物の生育地の減少 ※データなし ○セイウタンポポとの交雑によるカントウタンポポの雑種化 ※データなし	○圃場整備・冬季乾田化による生態系への影響(ニホンアマガサザリガニ、トナリ類等、水生生物への影響) ※別紙2 (第2の危機)	○耕作放棄による生態系への影響(水生生物、サンバ等) ○地権者の協力のもと、耕作放棄水田を活用して、生物多様性の指標となる生物種の生育・生育に配慮しながら、市民参加による耕作を実施する。
里山	房総丘陵と呼ばれ、最高地点408m。標高の割に急峻な地形の箇所が多い。清澄山を中心として自然性の高い森林が残されている。	一部に南房総国立公園、県立自然公園(高尾山、富山、養老奥清澄、彌岡山系、笠森鶴舞)の指定あり。清澄山周辺は、東京大学の演習林。	○ゴルフ場開発による自然環境の改善、水生生物への影響 ○山砂利採取による動植物の生育・生育環境の劣化 ○水源地の開発による生態系への影響(産廃廃棄物最終処分場等) ※データなし ○希少植物の盗掘(アヲチドリ、ヒメコマツ、ミツバツツジ、キヨスミツツバ等) ※データなし	【森林】 ○植林地(スギ林等)の管理放棄・管理不足による動植物の生育・生育環境の悪化・消失 ○薪炭林産業の衰退・消滅による森林構造の変化(照葉樹林化、樹高の増大、アズマネザサの繁茂等)とそれに伴う林床植生の単純化(キンラン、キンラン等の減少) 【草地】 ○牧・カヤ場の消失による草原植物の絶滅 ※別紙1	○アカガザザルとニホンザルとの交雑によるニホンザル個体群の雑種化 ○タイリクバラタナゴとの混雑によるミヤコタナゴ個体群の減少	○ニホンジカの増殖による植生への影響(下層植生の食害) (第2の危機) ○ヒメコマツ個体群の減少(1988年調査で192本→2000年16本、新たな発見11本。房総のヒメコマツ研究グループ報告書(2001)房総丘陵におけるヒメコマツ個体群の緊急調査報告書)	○植林地(スギ林等)の管理放棄・管理不足/薪炭林産業の消失による森林構造の変化(照葉樹林化、樹高の増大、アズマネザサの繁茂等)とそれに伴う林床植生の単純化(キンラン、キンラン等の減少) ○地権者の協力のもと、植林地や旧薪炭林を対象に、市民参加や企業参加等により保育・管理作業を実施する。
九十九里低地	海岸平野。砂堤と溜地から成る。屋風ヶ浦や太東崎の侵食による砂によって形成された。	—	○開発による食虫植物群落・湿生植物群落の減少 ※データなし	—	—	○開発による食虫植物群落・湿生植物群落の減少 ○地権者の協力のもと、耕作放棄地や公園の一部等において埋土種子集団からの絶地植物群落の復元を行う。	

県土区分	特徴	保全の状況	＜第1の危機＞ 人間活動・開発が直接的にもたらす種の減少・絶滅等	＜第2の危機＞ 自然への人為の働きかけが縮小撤退することによる種の減少等	＜第3の危機＞ 外来種による生態系の攪乱、化学物質による生態系への影響	＜その他＞ 3つの危機に当てはまらないもの、別にした方が適当と考えられるもの	危機への対応(事例案)
湖沼 印旛沼、手賀沼	海跡湖で、干拓が進み、水質の改善が課題。 印旛沼は水道水源。	県立印旛手賀自然公園	○干拓による抽水植物帯の消失 ※別紙3 ○透明度の低下等水質の悪化による水生生物への影響 ※河沼とも水生植物はほぼ絶滅、浮葉植物や浅水性の抽水植物も多量に絶滅。千葉県(2001)千葉県自然誌本編5千葉県植物一植生(一)		○カミツキガメの繁殖による生態系への影響(印旛沼及び流城河川) ○オオクチバス、コクチバス、ブルーギル等外来魚の捕食による在来魚等の個体数の減少		○干拓による抽水植物帯の消失 ○沼の周辺に遊水池、水質浄化施設及び水生生物等の生育・生息地を兼ねた湿地を造成する。
河川 利根川、江戸川	利根川は延長100km、流域面積1,325km ² に及ぶ大河。江戸時代に東京湾から太平洋へと流末が委ねられ、派川は江戸川として東京湾に注ぐ。飲料水として取水が行われている。	一部に水郷筑波国定公園の指定あり。	○飲料・農業用等のための取水、水量調整等、高度の水利用による生態系への影響 ※利根川のヤマトジミズミズ量：1970年21,661t(全国シェア53%)、茨城県側を含め37,955tで、全国シェア92%。その後、河口堰上流は削減状態。下流も1985年で1,401t(千葉県自然誌本編6千葉県の動物1)。				○飲料・農業用等のための取水、水量調整等、高度の水利用による生態系への影響 ○河川敷の生物相を把握した上で、適正な管理手法を検討する。
東京湾内湾の海岸部(塩田、干潟、浅海城)	後背湿地～干潟～浅海域といった構造があったが、ほとんどが埋立られた。残された干潟、浅海城には、三番富津干潟がある。	一部に国設鳥獣保護区(谷津干潟)、近郊緑地特別保全地区(行徳)の指定あり。	○埋立による干潟、浅海域の減少(底生生物の生息地の減少、魚類等の産卵場の減少、稚魚・幼生の生息地の減少、鳥類の採餌場所・休息場所の減少等) ※12,000haに及ぶ干潟・浅海域を埋立てた(千葉県(1996)千葉県の歴史別編地誌1)。 ○富栄養化に伴う底質環境の悪化、貧酸素水域の形成と青潮の発生による藻生生物への影響(夏季形成、青潮による底生生物、付着生物、魚類の酸欠死)	○漁業の衰退や海へのアクセスの低下に伴う海への関心・注ぎ力の低下 ※データなし			○埋立による干潟、浅海域の減少(底生生物の生息地の減少、魚類等の産卵場の減少、稚魚・幼生の生息地の減少、鳥類の採餌場所・休息場所の減少等) ○予備的な作業として、埋め残し水路や人工海浜を利用して、底質改善等生物の生息地としての環境改善を積極的に行う。
里海 南房総の海岸部	海食崖や砂浜が形成され、海岸の環境に適応した植物の生育が見られる。海水浴場や漁港が点在する。	南房総国定公園					
九十九里海岸	延長約60kmに及ぶ日本有数の砂浜海岸。	県立九十九里自然公園	○車両の乗り入れ、人の踏み付けによる海浜植物群落や鳥類・アカウミガメ等への影響				○砂浜の減少によるハマヒルガオ等海浜植物群落の減少/砂浜の減少 ※データなし ○砂浜の侵食・堆積傾向の把握をモニタリングした上で必要な対応を検討する。
鎌子付近の海岸部	中世代の地層の露出が見られる。また、海岸の露出に適應したソナレマンツムシ等の生育が見られる。	水郷筑波国定公園					